

食道・胃・十二指腸内視鏡検査説明及び同意書

独立行政法人国立病院機構 信州上田医療センター

1) 食道・胃・十二指腸 内視鏡検査とは

内視鏡を口又は鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸を観察する検査です。
潰瘍、ポリープ、がん等の病気の発見や組織を採取します。

2) のどの麻酔

キシロカインという麻酔薬をのどに噴霧します。まれにこの薬でアレルギーを起こす方がいます。
以前に内視鏡検査や歯の治療の際に麻酔で具合が悪くなったことがあればお申し出下さい。

3) 注射

通常、検査を行いやすくするために胃の働きを止める薬（抗コリン剤）を注射します。
この薬はまれに緑内障の発作（眼圧が上昇し目が痛くなる）を誘発したり、前立腺肥大の方では尿閉（尿が出なくなる）を起こすことがあります。また、狭心症・心筋梗塞・心筋症の方は心臓に負担がかかります。以上のような病気におかかっている方はお申し出下さい。

また、嘔吐反射の強い方は静脈麻酔薬（眠る薬）を注射する場合があります。検査終了後に、回復室にて休んでいただきます。起きる際には、ふらついて転倒する危険がありますので、必ずナースコールを押して下さい。また、この注射をするとボーッとした感じが残る事があり、その日の車の運転は危険ですので控えて下さい。

当日自分で運転して帰宅することはおやめ下さい。

また、必ず同伴者とご一緒にお越し下さい。

なお、この薬により呼吸が抑制される場合があるため、高齢の方や呼吸不全の方には使用しません。

4) 合併症

内視鏡を挿入や観察時に以下のような合併症が生じる場合があります。日本消化器内視鏡学会の全国集計では、食道・胃・十二指腸内視鏡検査の合併症発生は0.012%と報告されています。

- (a) のどの損傷を起こすことがあります
- (b) 検査中のげっぷや空あげで胃の内圧が高まり胃の粘膜や壁に亀裂が入ることがあります（マロリー・ワイス症候群）
- (c) 生検後の出血（下記）
- (d) その他

以上のような合併症を避けるように細心の注意を払いますが、万一合併症が生じた場合には最善の対処を行います。やむなく合併症が発生し入院、輸血、手術等が必要になった場合の医療費は保険診療になります。患者さん側の支払い分につきましては、ご負担いただくことをご了承願います。

5) 生検組織検査

検査中に病気が見つかった場合、病変の一部を採取して顕微鏡で詳しく調べる生検組織検査を行います。生検の際にごく少量の出血がありますが、通常は自然に止血します。しかし、まれに大量の出血が起きたり、検査終了後に再出血することがあります。このような場合には内視鏡を用いて止血術を行う必要があります。より入院が必要になりますので、検査後に黒い便が出たり、血を吐いたり、ふらつき感が続くときはすぐに病院にご連絡ください。

生検の費用（数千円）については、次回外来（説明）時徴収させていただくことがあります。

※担当医師と検査施行医師は異なる場合がありますのでご了承ください。

説明者 _____ 消化器 医師 _____

<確認欄>

抗凝固薬	有・無	薬品名：	抗凝固薬中止日：	年	月	日
薬剤アレルギー	有・無	薬品名：	妊娠（女性）	有・無		

以上のように、医師及び看護師より、食道・胃・十二指腸 内視鏡検査の必要性及び合併症とその対策について説明を受けて、検査内容を理解致しましたので、検査を受けることに同意します。

信州上田医療センター病院長殿

年 月 日

患者氏名

印

現住所